(2) 研究の視点

評定尺度Ⅱの調査結果から，このクラスは「情報の創造力の形成」及び「情報手段の理解と操作能力の習得」に関する要素が陥没していることが分かったが，特に，その中で情報機器の操作が最も低く，平均1.65となっていた。

そこで，本時は学級指導における「進路指導…学ぶための制度と機会」の授業において，まず生徒一人ひとりにコンピュータを自由に使用させ，キーボードの基本的な操作を体験させることにした。

この操作を通して必要な情報を収集・選択させ，自分の参考資料としてまとめさせるようにすれば「情報手段の基本的操作能力⑫」の向上とともに，全体的にやや低い状態にある要素「情報の収集①情報の選択②，情報の処理③，情報の創造④，情報の伝達⑤」を向上させることができるものと考えた。

(3) 情報活用能力の育成プロセス

次に，「学ぶための制度と機会」の授業の指導過程と情報活用能力の育成プロセスを関連させながら，吟味した点を述べる。

なお，本研究では情報活用手段を「人」…教師保護者・生徒，「物」…施設設備・教材教具・コンピュータ，「組織」…学校・学年・クラス等に分けて明確化をはかっている。(詳細は図－1参照)

情報の種類では，中学生として最も関心の高いと思われる「進路に関する情報」を取り上げた。

① 課題の把握≪課題の発見≫

◦ 教師が本時の課題「高校の学科の特徴を知る」を提示する。　［情報活用手段　人…教師］

↓

◦ 先輩の話を聞き，進路についての意識を強め本時において調査する観点をつかむ。

［情報活用手段　人…先輩］

↓　［　〃　物…録音テープ］

◦ アンケートの結果から学級の様子を知り，課題解決のために見落としてはならない調査の観点を確認する。　［情報活用手段　人…教師］

［　〃　物…コンピュータ］

↓　［　〃　物…教師自作ソフト］

② 高校の学科の特徴を知るための調査

≪解決のための情報活用≫

◦ コンピュータから自分の希望する高校についての情報を引き出し，検討する。

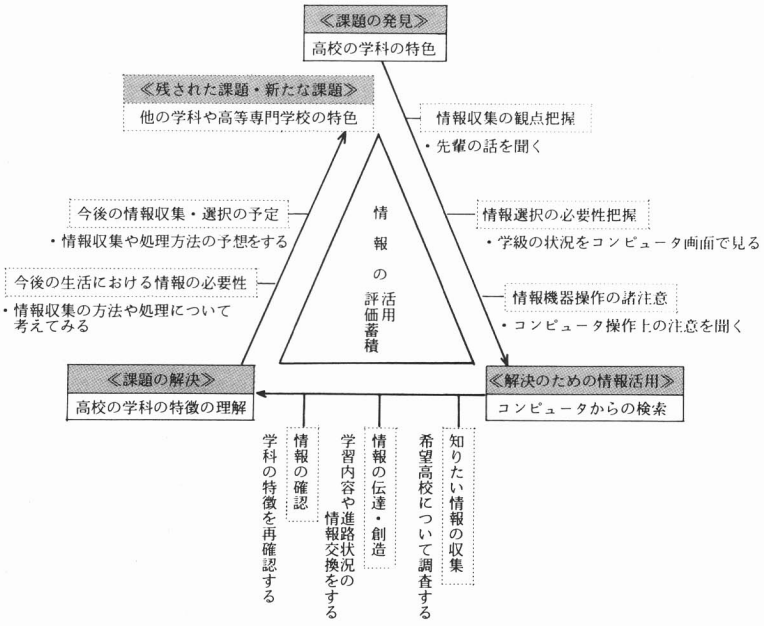
［情報活用手段　物…コンピュータ　自作ソフト］

◦ 学習内容や卒業生の進路を中心に，学科の特徴について話し合い，まとめる。

［情報活用手段　組織…クラス］

↓

◦ コンピュータは項目ごとの検索もできることを聞いて，実際に各学科の特徴をフィードバックし



図－8　情報活用能力の育成プロセス